

527-T0797



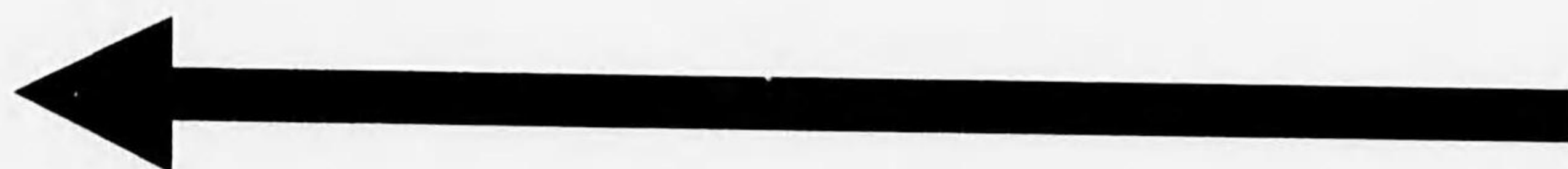
27  
79

農村住宅設計指針

富山縣厚生協會編



始



962

144

農村住宅設計指針

法財  
人團  
富  
山  
縣  
厚  
生  
協  
會

527  
T0.79



### はし が き

衣食住は吾人の日常生活上其の何れをも缺く事の出来ない三大要素であるが、其の内衣服は既に國民服が制定せられ又食物に於ては榮養食又は各種の代用食が普及實施せられ、各々決戰體制の確立に寄與しつつある事は誠に欣快に耐へない。

然し乍ら吾人の最も愛着して止まない住宅は果して戰爭生活に合致して居るであらうか、古語に「居は氣を移す」と云ふ諺があるが居は氣のみならず、健全なる身體培養の温床となり健全なる精神涵養の道場ともなるのである。

然らば此の健全なる身心の源泉たる可き決戰體制下の住居にして健全なる身心の培養に適するものが果して幾何あろうか。特に結核縣の汚名を持つて知る當縣に於ては之が原因の調査に着手せる處空氣清淨なる農村に豫想外の患者を發見し一驚を喫した次第である。「カイニユウ」を廻らした納戸式建物は保健康生上如何に不適當にして且病原菌の温床であるかは今更多言を要せざる處である。國家の要請する健民健兵の育成上等不良農村住宅の改善に努むべきは論を須たざる處である。曩に本縣に於ては富山縣體位向上委員會及北日本新聞社共催にて保健康生上看過すべからざる結核蔓延の現況と農村住宅の實情に鑑み之が改善の一方途として、理想農村住宅の懸賞を行つたのである。

本冊子は其の應募設計中優秀作品を基礎とした農村住宅の基準を示したものであるが本冊子も完全なるものとは云ひ難いが茲に各位の御参考に供する次第である。



## 富山縣農村住宅標準設計

建築監督官補  
岸野宗吉

### 建築技術方面の研究に就て（懸賞の規定に依る）

富山縣内の農村住宅に付ては一般農家に於て擴範圍に改築新築等の場合最も利用出來得る様に改善考慮を要するは勿論なるが、現今の時局下建築資材の緊迫の爲め其の構造施工法又は建物の間取り等は文化の進んだ今日の生活を容るゝ家とし、尙ほ一箇年を通じ夏冬の季節は充分なる光線を取り入るゝ構造となす。建築物の外観、屋根等も特に經濟的な設計となし、敷地の利用選擇は衛生方面より考へると住宅の採光又は通風換氣又は風向と作業場に最も便利なる配置計畫を研究の必要を認めらる

#### 第一圖（採光方向）参照

家族數は老夫婦若夫婦小供等七人位を基準として計畫した、耕作、飼育、田地約一町五段、畑三段歩の耕作程度、鶏二十羽を飼育、馬一頭使用、前面の小川を利用して養漁場を設け、其の程度は中農家と考へ建築費額は年利益の點を考慮し、新築に對しては木造建物建築統制規則に依り、農村住宅として作業場の併用は建築總床面積四八、四五坪（一六〇平方米）に制限あり。敷地面積は住宅及附屬建物其他の工作物蔬菜園庭樹、養漁場等を設け、家族數より考へるときは一八〇乃至二二〇坪位は農家住宅建築物の敷地としては適當なるも土地の狀況なり地勢に依つて多少は相違あるも大體は之が基準なる面積として可なり。

計畫設計と左の説明内容並に圖面を參考として計畫せられたり。

#### ④ 敷地に對する建築物の配置

住宅と作業場及其他の附屬建物と接近するときは住宅内に塵埃が侵入し、不衛生なるが故に住宅と作業場を廊下を以て隔離するは最も衛生的なり。尙ほ建物の配置は一箇年中採光量大なる（第一圖）方向南東を採り、建物は外部地盤より多少高地とし、其の敷地内排水路は開溝にして掃除に便ならしめ、敷地、地盤面は適當の勾配を附し、又は用水、小川を利用したる養漁池を設けたり、別に庭池として設備するも可なり。本縣は特に南西の強風を考慮し、建物の配置、家根、構造は勿論西夕陽を避くる爲め適當なる樹木利用の必要を認め配置計畫せるも、其の地型狀に付ては特に研究せられたし。

#### ⑤ 建築平面計畫

建築敷地は道路に接するを原則とし、住宅及附屬建物の平面計畫は前述の如く採光を充分に取入るゝ方向、又は通風、換氣を重點として北向の位置に玄關、臺所、便所等の類を設け、玄關は最少限度の必要面積を取り、食堂及圍爐裡等の間は床板張り、作業中の食事を便利なる様床高一段階上げたる構造としたり。断面圖（第一圖参照）玄關より作業場、其他の建物と連絡上何れも土間とし、居室は客間兼居間八疊、六疊二間、小供室は特に體位向上と健康増進を計り、南東側に棧側、欄間等採光面を充分に取入れ、各室の連絡は棧及廊下にて直接通する様となし、又は夏季の北風を利用する爲め相當なる開放窓を設く。六疊間の天井上食堂天井上を「アマ」等を設け、農家として最も必要なる物品の物入（土藏替り）其他雜物の保存置場を設ける構造となしたり（第二圖参照）食堂、臺所、風呂場の箇所は床土間に、流しは立流し作り、簀子板（取外し自由）之れは作業場より土足の儘にて炊事其他の仕事を爲し得るに便なる様に設備し、殊に農繁期の多人數の食事の場合を考へ食堂床板張りの間は簡易食事準備出來得る様（取外し式）にても可なり。前床土間より五寸位を高くしたり。床板張り臺所には適當なる位置に小地下室（薪

入炭入)を設くるは最も必要なるものにて設けたり。

#### ③ 附属建築物並に工作物

住宅と作業場の建物の連絡上通路を廊下上家付とし最も近き場所を漬物置場、物置納屋とし、作業場は農家として最も重要な建物にて其の能率増進の點を考慮側を充分に取り、特に作業場は秋の農繁期には仕事の利用出來得る様に軒高を十四尺位とし、一部を有効なる中二階を取り外氣の通風並に光線を入る、様に全部側に窓欄間を設け、收穫物の乾燥等に最も有利に使用する設備となし、作業場前入口は外部より運搬作業に便をはかる爲め土間を低くし、内部は土間叩きとなし前面通路上には庇しを利用して馬舎鶏舎の連絡を取りたり。

#### ④ 衛生設備

馬舎と鶏舎と接近するは虫害の影響を及ぼす爲め馬舎と隔て鶏舎は約二十羽を收容、建物は一羽平均約四平方尺、巢箱等を含むの割合にて外に遊場としては一羽五平方尺位は適當なり。鶏舎内は換氣通風の調節等は特に注意を要するものなり。一般は床上より五寸位の位置に開閉の出來得る通風窓面積の二十分の一程度を設け、夏冬の調整を計る設備となし、周範は竹あみ製を使用、馬舎内部は土間勾配を附し排泄物を一定の溜槽に流し、通風孔又は換氣装置を設け内部は丸太材を二ツ割にて立張りとし、上部一部は壁又は窓を設けたり。馬舎鶏舎等は住宅より見透しの出來得る採光等の良い場所を撰定す。灰納屋は便利上特に建物内に取り設けるも危険性ある爲め防火的構造として代用セメント使用、高さ七尺位、全部其他は不燃質材を以て施工せり。糞具置場、肥料置場等を仕事上便利な位置に設け、尙ほ作業場に接近したる箇所に外便所の必要を認め設けたり。

堆肥舎は田畑其他等の耕作段別量に依るも三坪より六坪位を適當とし

側廻り腰部は代用セメント等を以て高さ四尺以上上家的の構造とせば建築面積制限の坪數に算入せず、又は排水の設備改良、便所、臺所の汚水溜槽等は特に設計に當り各自の研究を要するものなり。

#### ⑤ 建築一般構造

前述の如く設計に先立つて考慮を要するは建築資材又は法規に基く問題である。現今の統制機構下の物資節約に付ては建物の主要なる基礎部分柱當り箇所は川石を使ひ、布混凝土を使用し得るも其他の差支なき繋ぎ基礎コンクリート、土間等は出來る丈け代用セメントを使用し、其他は煉瓦、石類を用ひセメント節約を計る。木材に付ては木材統制の關係用材規格規定の寸法を適當箇所に利用し、構造強弱上差支なき程度に於て最も經濟的なる規格寸法材を撰びたり。建築住宅材料は座敷廻り上等其他中等品材附属建物並材使用程度とし(一般は建築資材の良否に依つて建築費の相違あり)小屋は日本小屋組押角材程度にて組合せ、屋根は不燃材を(瓦葺)圍爐裡、食堂、臺所の煙抜き装置を設け外部外觀は木材を多量に使用せざる構造とし防火的構造と、防火壁塗仕上(代用材料使用)内部食堂中央の床下利用(地窖)(三尺—四尺深さ三尺位)適當を設け空襲又は火災等の場合に於て最も必要缺くべからざるものと認め施設をなしたり。

#### ⑥ 建築面積及建築費(附帶工事を除く)

農村住宅の作業場其の附属建物は一團の土地(建物敷地)合計床面積は百六十平方米(四八、四五)坪、木造建物建築統制規則第一條に基き計畫したるものなり。住宅は百平方米(三〇、二五)坪、附属建物は六十平方米(一八、一一)坪を標準に基きたり。

建築設計豫算として考へるときは勿論、材料其他構造の良否、施工主の希望等に付て相異あるが、現今の統制に依る單價を基準として割出し

# 欠

# 欠

### 八、審査結果發表

北日本新聞及縣報ヲ以テ發表シ當選者ニハ之ヲ通知ス

### 九、其ノ他ノ注意

- (1) 審査ニ對シ異議ヲ申立ツルヲ得ズ
- (2) 提出シタル一切ノ書類ハ返戻セズ
- (3) 本懸賞應募者ハ富山縣衛生課ニ照會詳細規定書ヲ求メラレタシ
- (4) 當選設計圖ノ使用權ハ縣ニ歸屬ス

### 富山縣農村住宅設計懸賞募集審査

過般富山縣體力向上委員會並に北日本新聞社共催にて農村住宅懸賞募集したる處應募者六十二名あり、之が審査に關し

審査委員長	知事	町村金五
審査副委員長	警察部長	盛本完
全	經濟部長	榎本輝義
審査員	衛生課長	平山長藏
全	農産課長	阿部春夫
全	營繕課長	佐藤宮雄
全	保安課	岸野宗吉
全	北日本新聞社營業部長	岩脇捨三

全	體力向上委員會	塚本政次
全	體力向上委員會 縣農會技師	麻柄數間

審査員は健民運動の第一日たる五月一日午前十時より富山市武徳殿に於て審査會を開催したる結果左の通り入選者を決定せり。

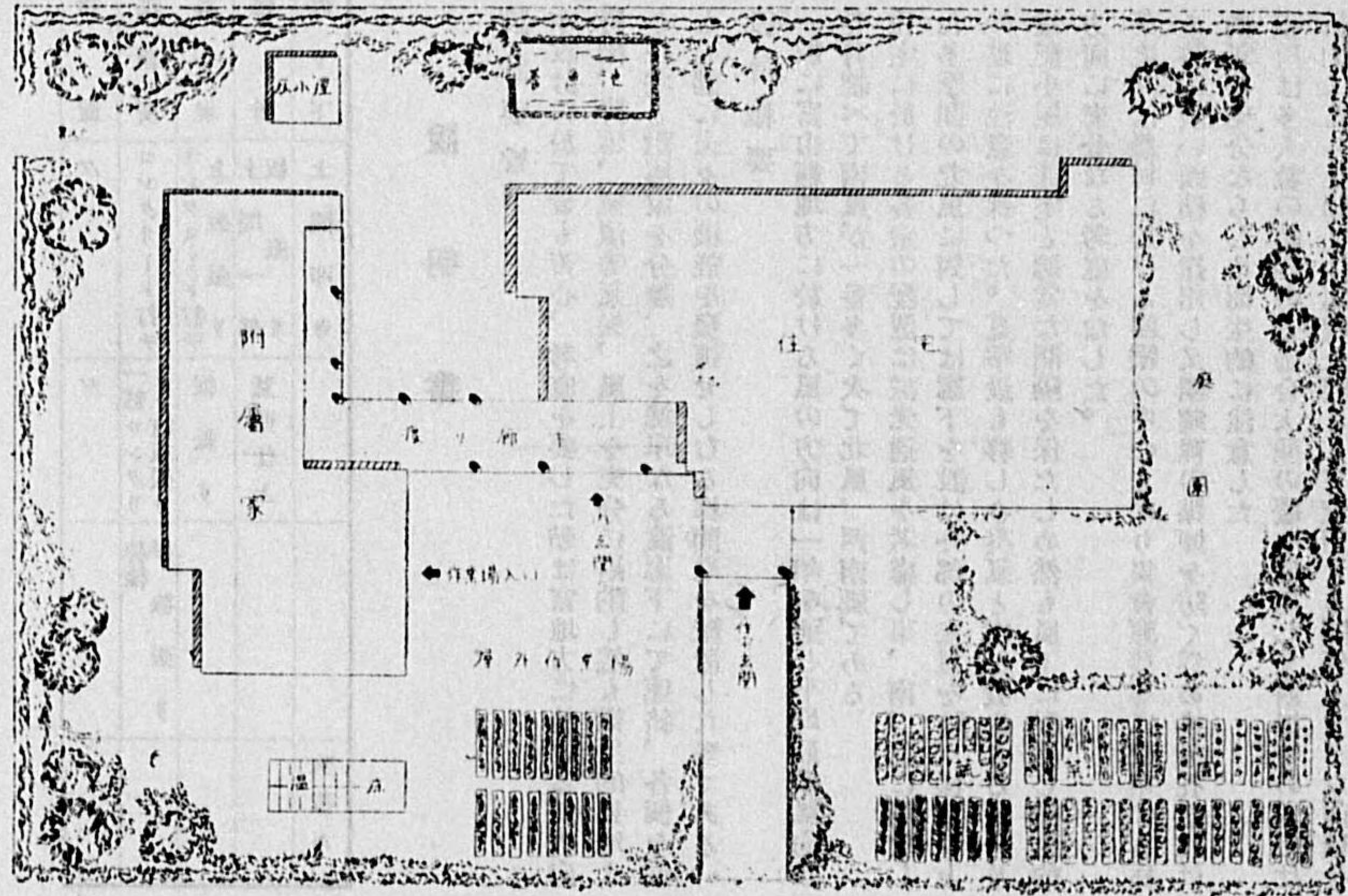
二等一席	富山市今木町	尾久正春
二等二席	富山市八人町	奥澤重信
三等一席	射水郡塚原村	宮腰間作
三等二席	富山市赤江町 傷痍軍人教育所	龜谷儀一郎
佳作一席	富山市清水町	杉本正弘
佳作二席	富山市愛宕新町	廣田久吉

二 等 一 席

富山市今木町二五  
尾久正春

仕 様 概 要

一、敷地面積 奥行 二二、五間 面積 二二七、五坪  
間口 一九〇間  
一、建物階数及坪数 平家 建坪 三六、三七五坪  
住 宅 〃 〃 二四、五〇〇坪  
附 屬 家 〃 〃 六〇、八七五坪  
總 建 坪  
一、工費概算 六二九〇圓〇〇  
住 宅 一、九六〇圓〇〇  
附 屬 家 八二五〇圓〇〇  
計  
一、一般概要 栗石地形無筋混凝土造り  
基 礎 木 造  
主 體 五寸公配瓦葺キ  
屋 根 地盤ヨリ疊上端迄 貳尺  
床 高 客間、居間、茶之間、廣間 八尺貳寸五分  
天 井 高 廊下、椽側、便所 七尺五寸  
九尺  
軒 高 1 住 宅 七尺五寸  
玄 關 地盤ヨリ軒桁峙迄 十一尺  
主 屋 土臺下端ヨリ軒桁峙迄 十一尺



2 附 屬 家

椽側下便所 八尺五寸  
臺所湯殿 九尺五寸  
作業場 土臺下端ヨリ軒桁峙迄 十尺  
便所 七尺  
其ノ他 八尺

一、仕上概要

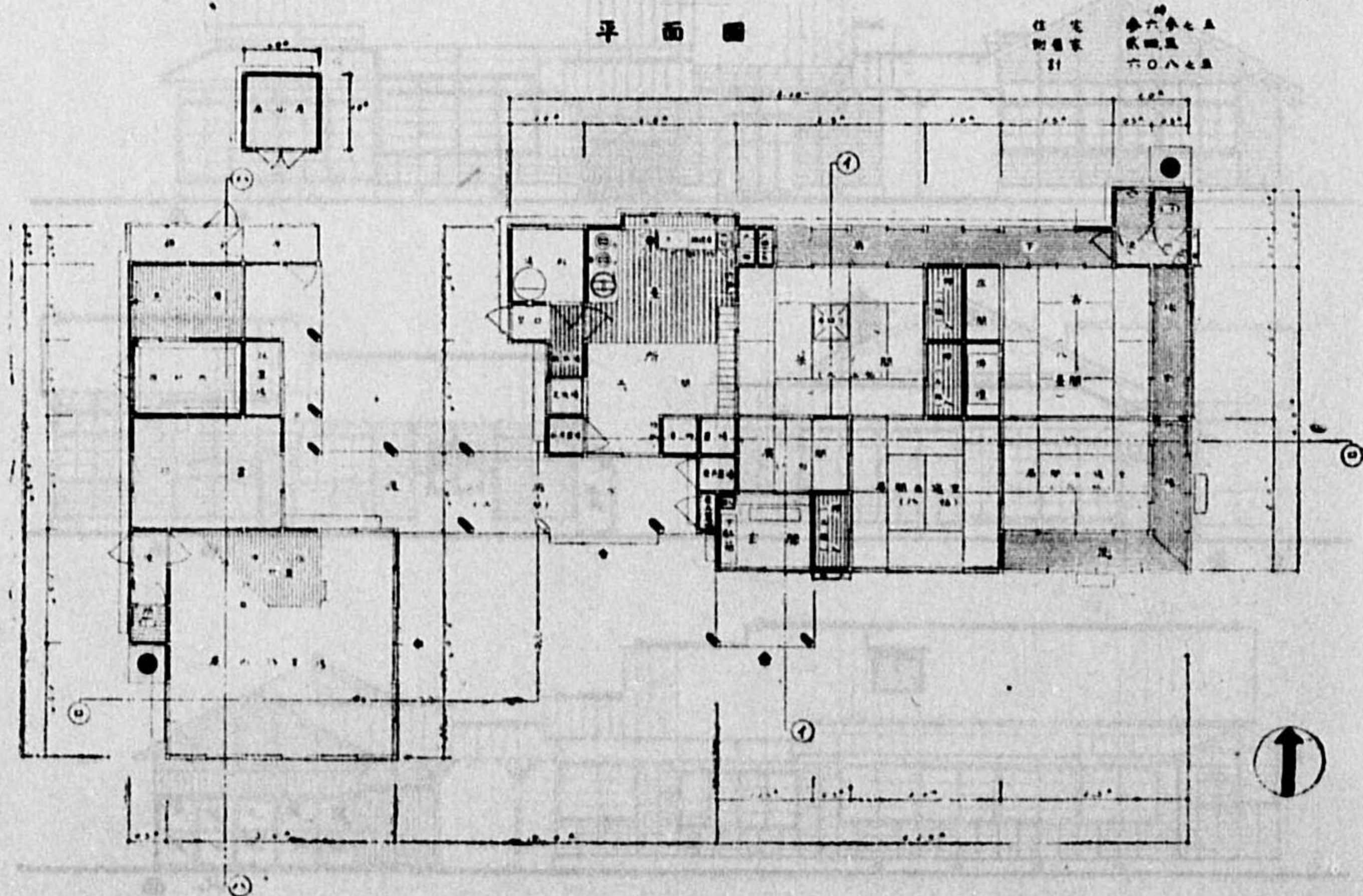
1 住 宅  
外部 腰モルタル塗り壁體彫子下見板張り小壁白漆喰塗り  
内部

名 稱	床	壁	天 井	井 筒	摘 要
玄 關	モルタル打チ	眞壁	杉板	杉板	八疊及六疊
廣 間	畳敷キ	上塗り防壁	杉板	杉板	
居 間	〃	〃	杉板	杉板	
客 間	〃	〃	杉板	杉板	
茶 之 間	〃	大津塗り	杉板	杉板	
椽側及下	フ杉	〃	杉板	杉板	
便 所	〃	白	〃	〃	
臺 所	土間一部	黄	〃	〃	
湯 殿	スノコ板敷キ	〃	〃	〃	

2、附 屬 家

外部 腰コンクリート打チ壁體並四分板張り押椽打チ  
内部

名 稱	床	壁	天 井	井 筒	摘 要
作業場	土間叩キ	荒壁仕上	〃	〃	



# 欠

物置	コンクリート打チ一部コンクリ	杉板張リ		
堆肥所	コンクリート打チ一部コンクリ	杉板張リ		
馬小屋	コンクリート打チ一部	板張リ		
便所	土間張リ一部	荒壁仕上		
渡り下	土間叩キ			吹抜キ

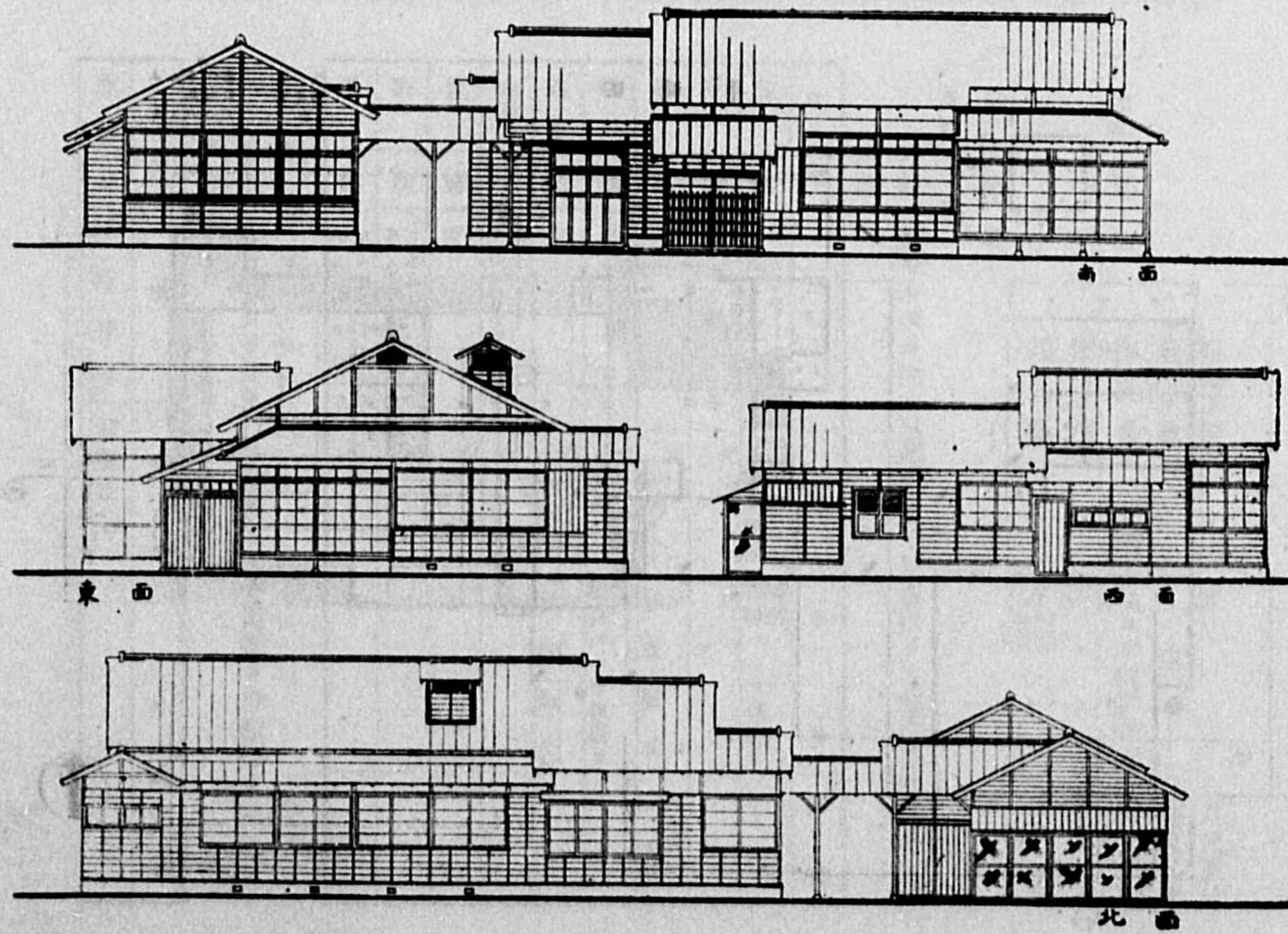
## 説明書

### 一、設計要旨

本設計に於て最も苦心、考慮を要した點は富地方に於ける風方向  
降雨、降雪、氣温等氣候、風土を充分に斟酌し然も衛生的見地よ  
り住宅と附屬家を分離、之を簡單なる渡廊下にて連絡、各個を最  
も有効に夫々の機能を發揮せしむる様間取を配置した點である

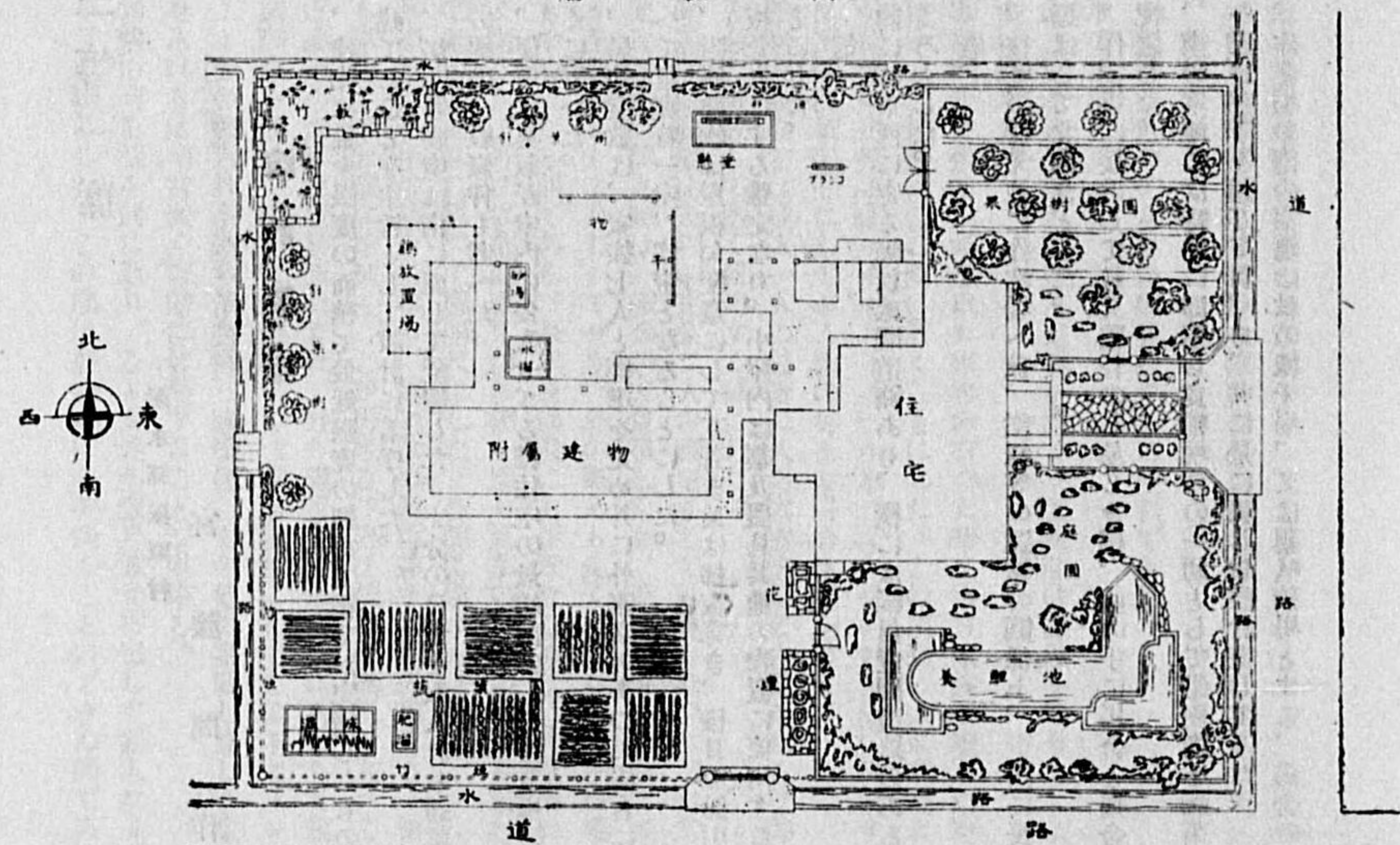
### 二、設計概要

一般に富山縣地方に於ける風の方向は一年を通じ平均最多風向は  
各月總べて南風が一番多く次で北風、西南風である  
住宅に於ける各室の配置は採光通風を考慮し東、南、北に開放し  
た冬季間の北風に對しては廊下を設け外部の寒氣を防ぐ様保温上  
の點に注意を拂つた。夏季最も夥しき臭氣と蠅を發生する畜舎及  
堆肥小屋は住宅と適當な間隔を保たしめ然も風下に配置し衛生的  
方面に充分なる考慮をなした。  
茶之間は農村に於ける團樂の中心となり集會應接等に使用する爲  
め特に廣い面積を採用し又圍爐裡の煤煙を防ぐ爲め換氣孔を設け  
換氣を充分ならしめ衛生的に注意した  
臺所は多人數の訪客ある場合大型の竈を使用し又餅搗等の爲め比  
較的大なる土間又は臨機土間として流用する關係上大きな面積を





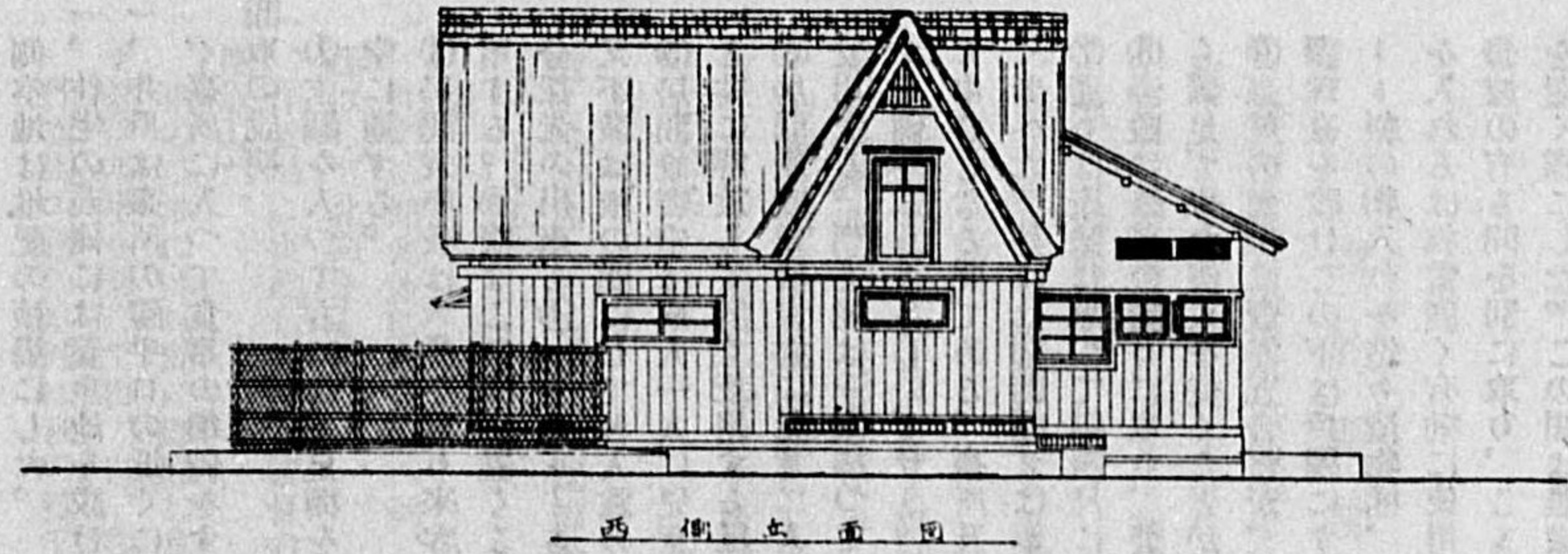
配置圖



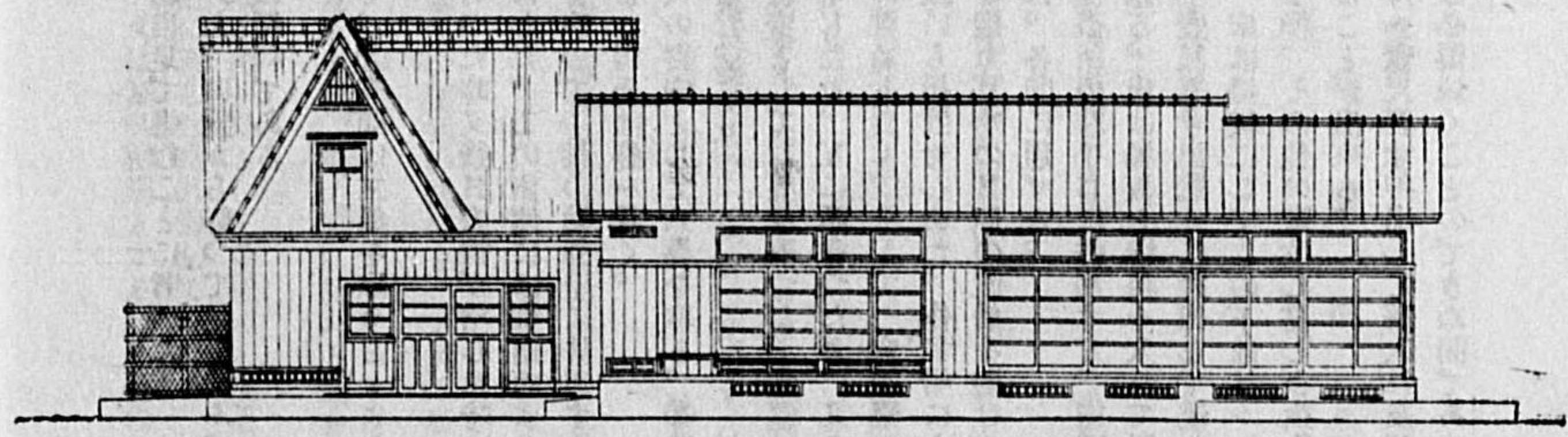
# 欠

馬小屋及堆肥場は四季共不衛生甚だしき故、住宅より成る可く隔離なし、又作業場とは農具置場等を中間に設けて離らした。  
 灰納屋及鶏舎は別棟とするのは理想的なるも冬期間積雪多量の際等は持ち運びに不便なる故に連続建とした。但し灰納屋及堆肥場は内部周囲(天井床共)土壁の大壁塗りとし、耐火構造にした。  
 灰納屋及鶏舎は床を高く上げて床下は雨天の場合等鶏の遊場を利用する様にした。  
 馬小屋の近所に水溜を作りしは馬の飲用水又馬の身體を洗ふ用水、其の他防火用、掃除用に兼ねる様にした。  
 砂場は冬期間大根等の野菜物を貯蔵する爲めに作つた。  
 便所は二箇所作り附屬便所は仕事中土足の儘使用出来る様にした。  
 溜壺は凡て衛生的に改良便所とした。  
 敷地は有効的に使用する爲めに果樹園、竹藪、蔬菜園、温床等を作り自給自足出来る様に考へた。  
 尙庭園には養魚池を作り泉水の兼用とした。  
 敷地の北側及西側の一部に杉垣を配し西側には針葉樹等を植込し堆肥舎の西光線の直射を避ける様にした。

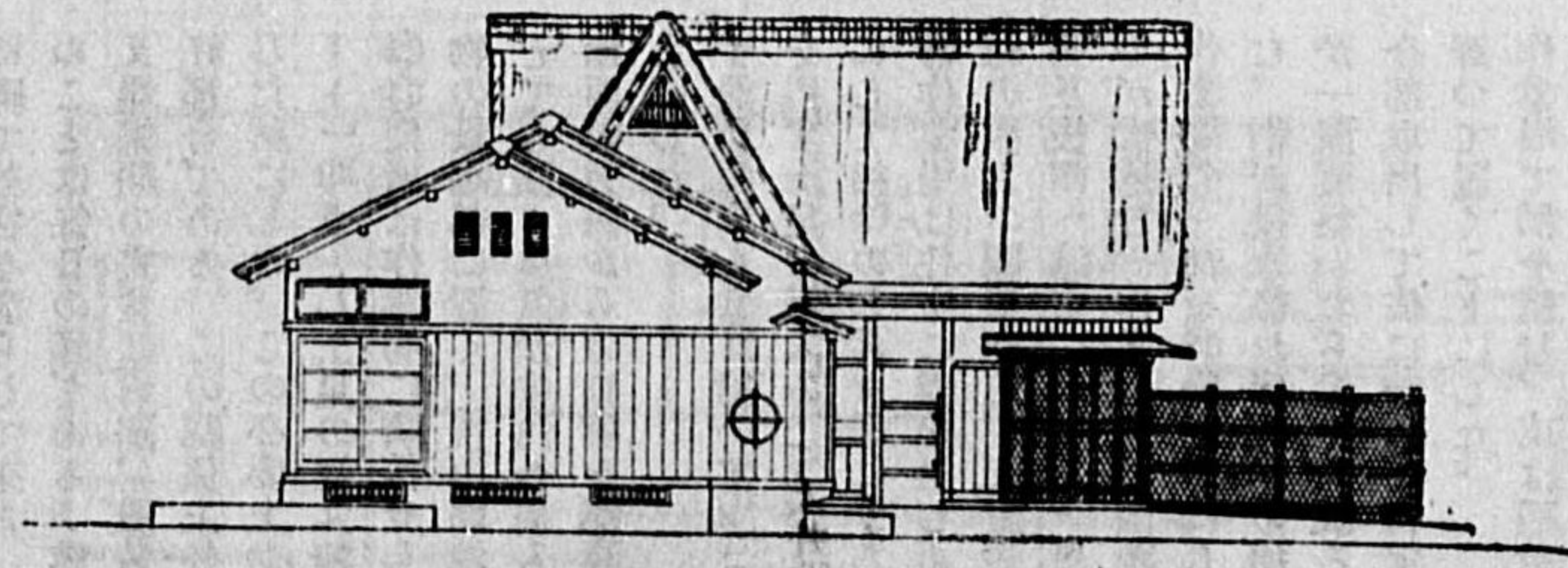




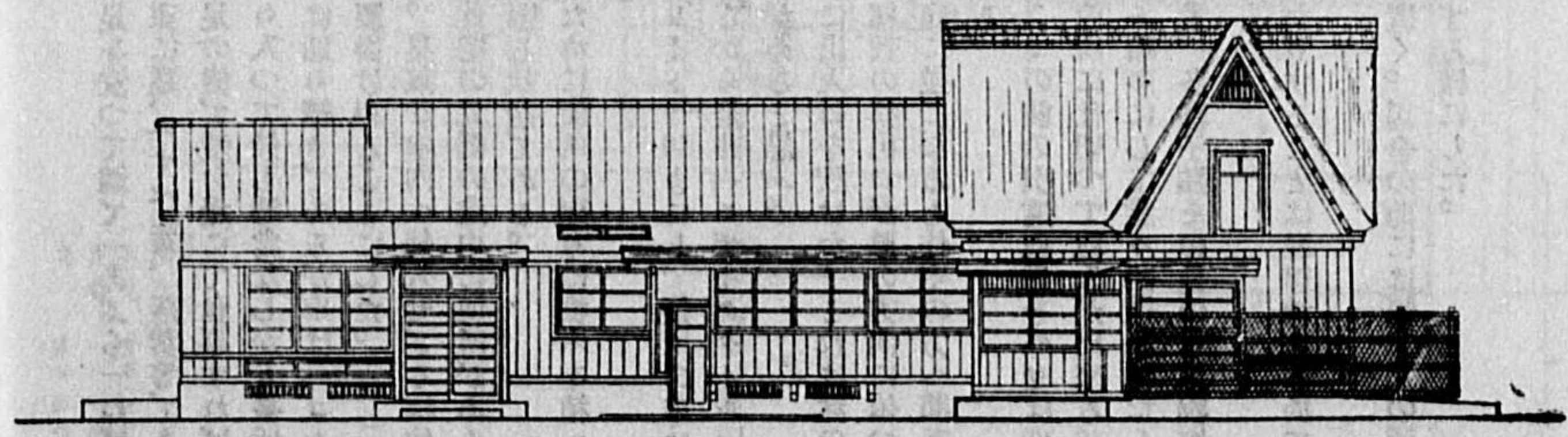
西側立面図



東側立面図



南側立面図



北側立面図

鶏舎は北風の當る、そして朝日の入るところを選んだ。鶏一羽に對し四平方尺内外の面積が必要として約二坪の面積を取つた。横には七坪の運動場を設け周囲には鐵鋼張りの柵をした。建物面積、物價高及各勞力不足に依る工賃の騰貴、建築資材の入手難の折柄、最少限度に最も經濟的に建築したいものと思つて間取を考へたが遂々住宅二十六坪二合、附屬建物が十二坪、計三十八坪二合となつた。

諸設備

- 一、電 燈 三個位必要と思ふ。外に動力の設備が要る。
- 一、井 戸 一箇所臺所及湯殿近くに、尙又馬舎、鶏舎にも遠からざる位置に掘る。
- 一、臺所には手押ポンプ一箇所設け、湯殿へも送水する。
- 一、排 水 臺所流しの排水は養魚池へ。
- 一、便 器 大小便用共白色陶器製圖示の型に。
- 一、手洗器 用水は吊下げ「カラン」にて、手洗器は白色陶器製隅の小型にした。
- 一、便槽は圖示の通り「コンクリート」製にして糞尿の落口は小さく暗く「トバシリー」の飛んで來ない様に急勾配の傾斜を附し、この傾斜は「セメント」又はその他の類にて滑かに糞の附着せざる様に仕上げる。臭氣が便器の方へ上昇させぬがためには前垂を下げ「ベンチレータ」を通じて外部に排出する様考案した。
- 一、便溜は大小便各別に施肥したき必要上、各別に仕切つた。
- 一、採光及換氣
- ③④⑤⑥等の各居間兼寢室（居住室）は南面して充分の採光窓を設け何れも鴨居上には、欄間を取り採光と換氣を兼ねることとした。
- ⑦の北面と⑧の南面等は内側、紙貼り障子、外側硝子戸の二重にして冬季の風雪の爲めに備へた。

この間の天井は二寸五分程度の折上げを付け圖示した通りこの間に氣抜きを八箇所設けた。南側の窓下には、掃出窓を兼ねた換氣窓を設けてこゝより新鮮なる空氣を取入れる。こうして換氣されて天井裏に排出された空氣は小屋内を通過して妻側の「ガラリ」窓より外部に出る。

⑨臺所も明るく通風良好様に窓面を大きく取つた以上⑩の他の各室にも圖示の通り天井隅には各四箇所宛の氣抜きを設けた。

⑩爐の間には天井の代りに六分板にて漏斗型の「ベンチレータ」を設けて煤煙の逃げ易き様に造り一尺五寸角の排煙路は作業場の小屋内を通過して上昇し、妻側の煙抜口より外部に排出する様特に考案した。

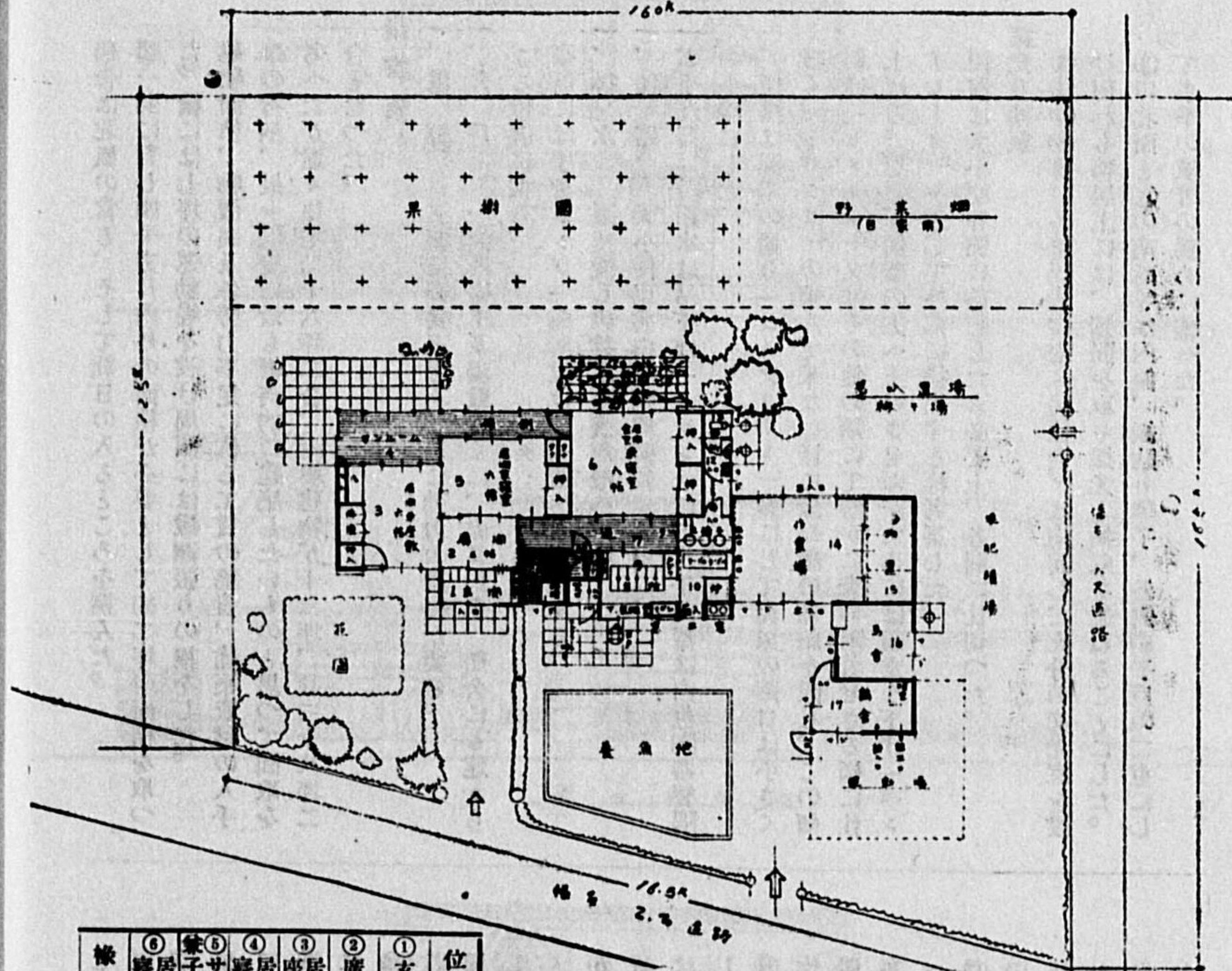
大便所の下部にも掃出式の窓を設けた。こゝより新しき空氣が入るから便所内の臭氣は天井隅に設けた氣抜きより小屋裏に便所の臭氣抜に別に設けた「ガラリ」窓を通過して外部に排出する便所の小屋裏は別に壁にて仕切つて一般の小屋内へ臭氣の行かない様に特に注意した。

⑭作業場は十月頃より來年の三四月迄約五箇月間、絶えずこゝにて作業をするところであるから採光窓面も充分に有り換氣にも注意し屋根端にと數桁の隙間を利用することにした。

⑮物置所にも天井に氣抜きを造り、小屋内を通過して妻側の口へ排出する様にした。

⑯鶏舎は曲の手の二方面に大きく窓を取り、朝日の入る様に特にこの場所を選んだ。又換氣にも充分注意した。天井には圖示の通り氣抜きを設け小屋内の排氣路より上昇して妻側の口に排出する様にした。

尙附屬品の小屋内最頂部全體は圖示の通り三角型の排氣路に利用した。汚れた空氣及臺所の爐より上昇する煤煙は凡てこゝより排出さ



**仕様概要**

住宅建築 建坪 二十六坪一合六勺 瓦葺 一棟  
 一、基礎  
 栗石搦キ固メ無筋「コンクリート」地業トスル。  
 一、軸部構造  
 土臺ハ草檜、又ハ柱ノ丸身付キ。  
 柱、桁、胴差、床大引、根太、其他ノ造作材ハ凡テ杉材ヲ使用スル。  
 造作材ト雖モ一等、上小節以下ノモノヲ使用シ堅牢本位ヲ建築スルコトニシタ。  
 一、小屋組  
 小屋梁ハ松、又杉ノ丸身素材、又ハ野角、軒桁及ビ母屋、極裏板破風及ビ淀、其他ノ材料ハ杉材ヲ使用スル。  
 一、内部仕上 左ノ通り

位置	天井	壁	腰	床	附記
①玄關	ベニヤ板張リ	大津仕上	ベニヤ板張リ	コンクリート叩キ	
②座間	目地押打チ				
③居間					
④居間					
⑤サンルーム					
⑥居間兼子供勉強室					
⑦居間兼					
棟側					棟甲板張リ

項目	仕上	材料	備考
⑦通り	竿縁天井	大津仕上	豆砂利コンクリート
⑧湯殿	打上板天井	大津	板張リ
脱衣室	同上	大津仕上	揚板張リ
焚口	同上	大津仕上	揚板張リ
⑨臺所	竿縁天井	大津仕上	板張リ
⑩爐ノ間	木製ベンチレータ	大津仕上	又ハ羽目板張リ モルタル仕上
手洗所	打上板天井	大津仕上	モルタル仕上
⑪通り	竿縁天井	大津仕上	モルタル仕上
⑫小便所	ベニヤ板天井	大津仕上	モルタル仕上
⑬大便所	同上	大津仕上	モルタル仕上
押入	竿縁天井	大津仕上	モルタル仕上
建具	引違戸及片開	大津仕上	モルタル仕上

一、外部仕上  
 腰ハ、モルタル塗り、壁部 堅羽目板張り、軒下 小壁ハフェルト及ガラス張りノ上、モルタル塗仕上、又ハ割竹木舞、掻キ荒壁塗りノ上順次漆喰塗り又ハモルタル塗仕上トスル。屋根ハ土居葺又ハフェルト貼りノ上瓦葺トスル。建具ハ凡テ硝子戸トスル。  
 附屬建築 建坪 十二坪 茅葺 一棟  
 一、基礎  
 住宅ノ仕様ニ準ズル  
 一、軸部構造  
 土臺、檜又ハ草檜材、柱、桁、梁ハ杉材ノ丸身付キ敷居、鴨居ソノ他ノ造作材ハ凡テ杉材トスル。  
 一、小屋組

合掌、杉材ノ末口二寸乃至二寸五分丸太、野地(縫葺竹)ヲ葺纏ニ結ブ。  
 ソノ他妻側材料及ビ床板等ハ凡テ杉材ヲ使用スル。

一、内部仕上

位置	天井	壁	腰	床	附記
①作業場	板張リ	堅羽目板張り		コンクリート叩キ	天井トハ小屋内モルタル塗り
②物置所				板張リ	物置ノ床ナリ
③馬舎				コンクリート叩キ	
④鶏舎				コンクリート叩キ	
⑤鶏舎				コンクリート叩キ	
建具	物置所入ニハ引違板戸、ソノ他ハ引違腰付硝子戸又ハ引違硝子戸トスル				

一、外部仕上  
 腰ハ、モルタル塗り、壁部 羽目板張り、屋根ハ茅葺キ、コレハ後日亜鉛引鐵板葺ニスル豫定ナリ。

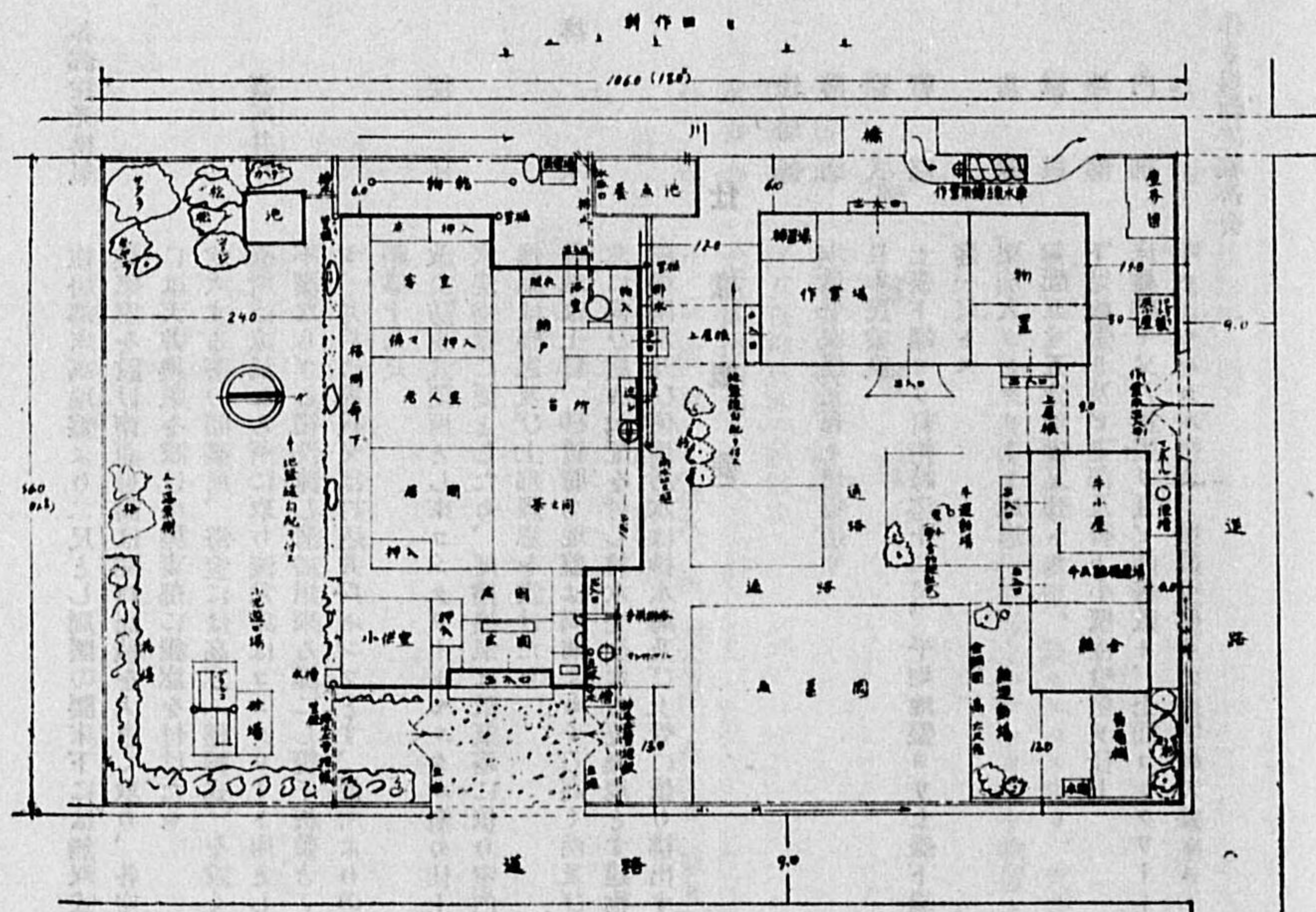
工費概算書

一金六千四百四拾圓也 總工費  
 此内 一金四千七百圓也 住宅建築工費 建坪 二六、一六坪也  
 一金壹千五百四拾圓也 附屬建築工費 建坪 一二、〇〇坪也  
 住宅建築 右内譯

工事例	工事費	摘	要
假設工事	一〇〇〇〇〇	下水屋損料一式	
基礎工事	三八〇〇〇	遣方損料、假設損料、各工料共一式	
木工事	一、八〇〇、〇〇〇	木材一式、テックス材合ム	







**参 考**

富山市愛宕新町 廣 田 久 吉

**設 計 概 要**

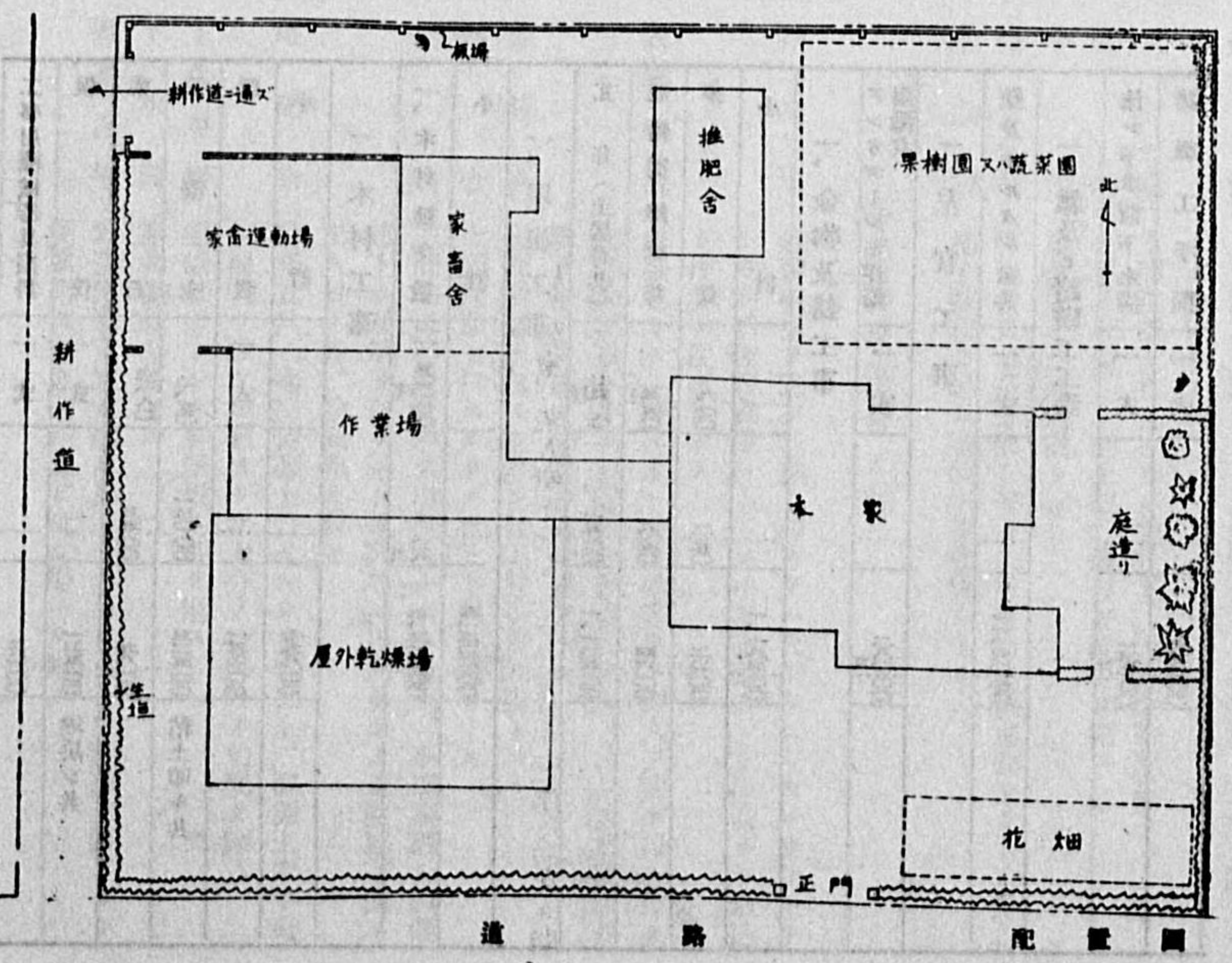
敷地 富山縣地方平坦部農村にして東及び北側に道路を有するものと假定し南北十八間東西十一間面積百九拾八坪  
 家族 主人夫婦老人夫婦小供三人計七人  
 建物平面計畫 耕作田地約一町五段、歩家畜牛一頭鶏二十羽を飼育す住居部(三十五坪五合)作業部(十三坪七合五勺)家畜舎(八坪)とに分つ

住居部 主要室の日照通風に對する考慮を何より重要視したり居間寢室、老人室を南面に並べ夏期の過熱を防ぎ冬期の寒氣緩和する爲め片條側廊下を設けたり小供室は特に、東光線及び南光線の直射光を取入れる爲め窓口は出窓のみとし直接採光換氣を計り冬期の爲め二重建具としたり居室と茶の間老人室と臺所を南北に並べ間仕切開放に依り夏期の通風を計り茶の間は東光線のみなれ共取入れ臺所は西陽を避け涼氣なる北面を撰べり、便所は平面の許す限り井戸と距離を取りたり

作業部 各室間取りは幾分當地方の風習(佛事常會等の集會の場合開放、土足の儘の便所)を考慮したり  
 在來當地は多くは、作業用の(ニワ)と稱する室を住居同棟内に取りしも塵芥換氣採光を考へ別棟とし、物置は穀物及び諸道具の貯藏上北側を撰べり  
 南向きとし前面の窓面積を大きく取り、前庭に運動場を設けたり

家畜舎

合 計	小 計	雜 費	總 計
		一式	一式
九八五.00	一〇三〇.00	五〇.00	一〇八〇.00



各部採光換氣

臺所井戸

便所

排水

仕様概要

住居部床高地盤より二尺とし周囲の腰床下には無双式換氣窓を設け南面東面は開口面積を大きく取り、各室には天井換氣を設け小屋裏部に鏝窓を付けたり炊火する茶の間臺所、浴室には高窓(廻轉式)を設く臺所は涼氣なる所に取り流元床はコンクリート床とし不潔ならざる様洗流し清掃出来る様にし簀子板敷きとす、井戸は掘抜又は打込井戸ポンプとす、便所よりの距離十八尺  
改良防虫式便所とし床コンクリートモルタル塗り仕上水洗掃除に便としたり、便槽換氣は吸氣塔に依り室内換氣は腰窓及び上部鏝窓を設けたり  
敷地は土質、砂質勝ち地盤は周囲より少し高く西及び北に向ひ緩き勾配を付し排水完全なる乾燥地とす建物屋根雨水及び使用汚水は排水溝及び土管に依り排出す

住居部 木造平家建瓦葺き切妻造り  
様式 日本民家風  
軒高 土臺下端ヨリ軒桁時迄十二尺、平均地盤ヨリ土臺下端迄一尺トス  
基礎 栗石入コンクリート地形  
屋根 勾配五寸五分切妻瓦葺トス  
内外部 下見板張り及び妻部及軒下小壁漆喰塗り仕上  
床 床敷敷キ又ハ板張り及ビ薄床敷キ、土間コンクリート  
内 叩キ、モルタル塗り、壁眞壁塗り天井竿椽天井トス

作業場物置家畜舎

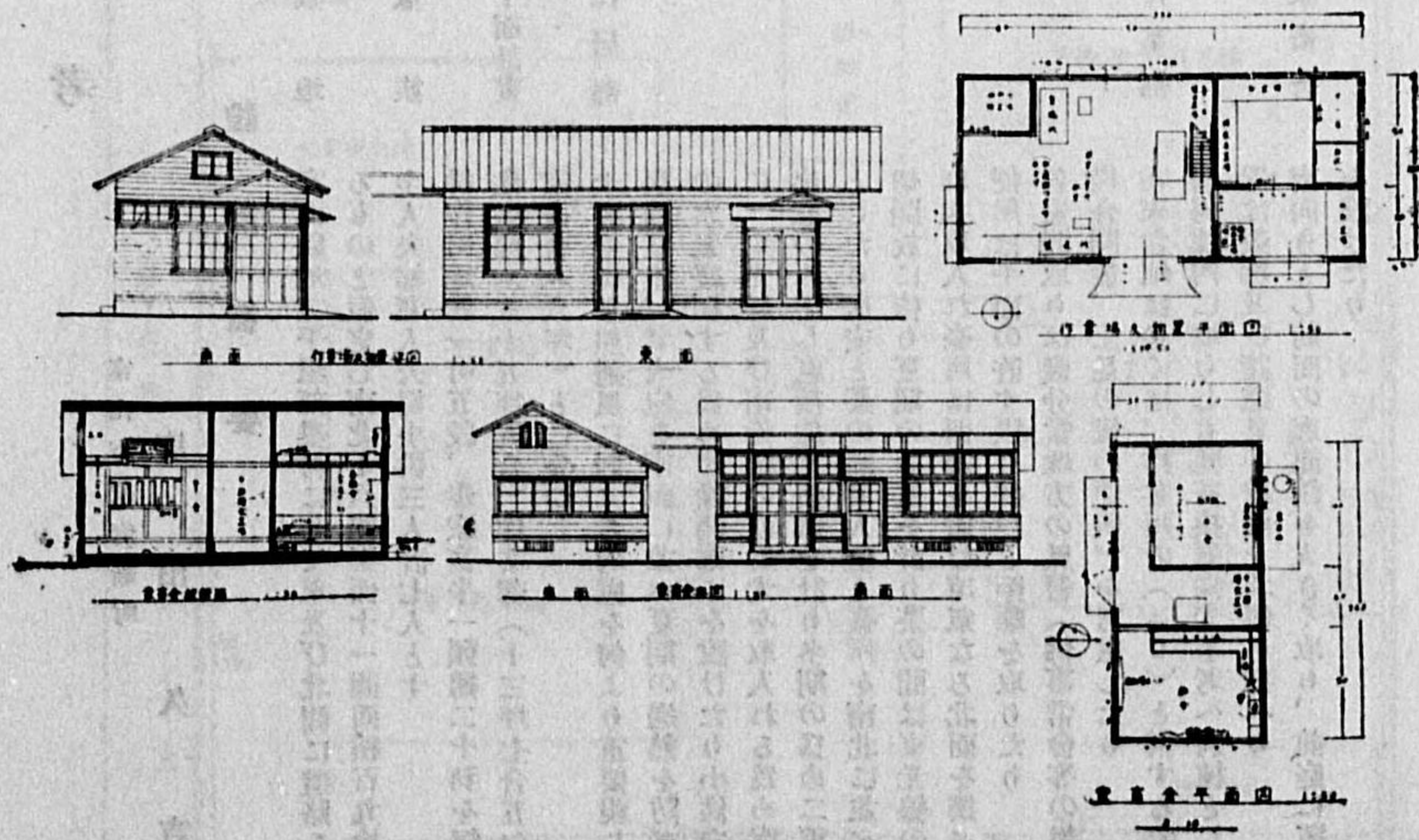
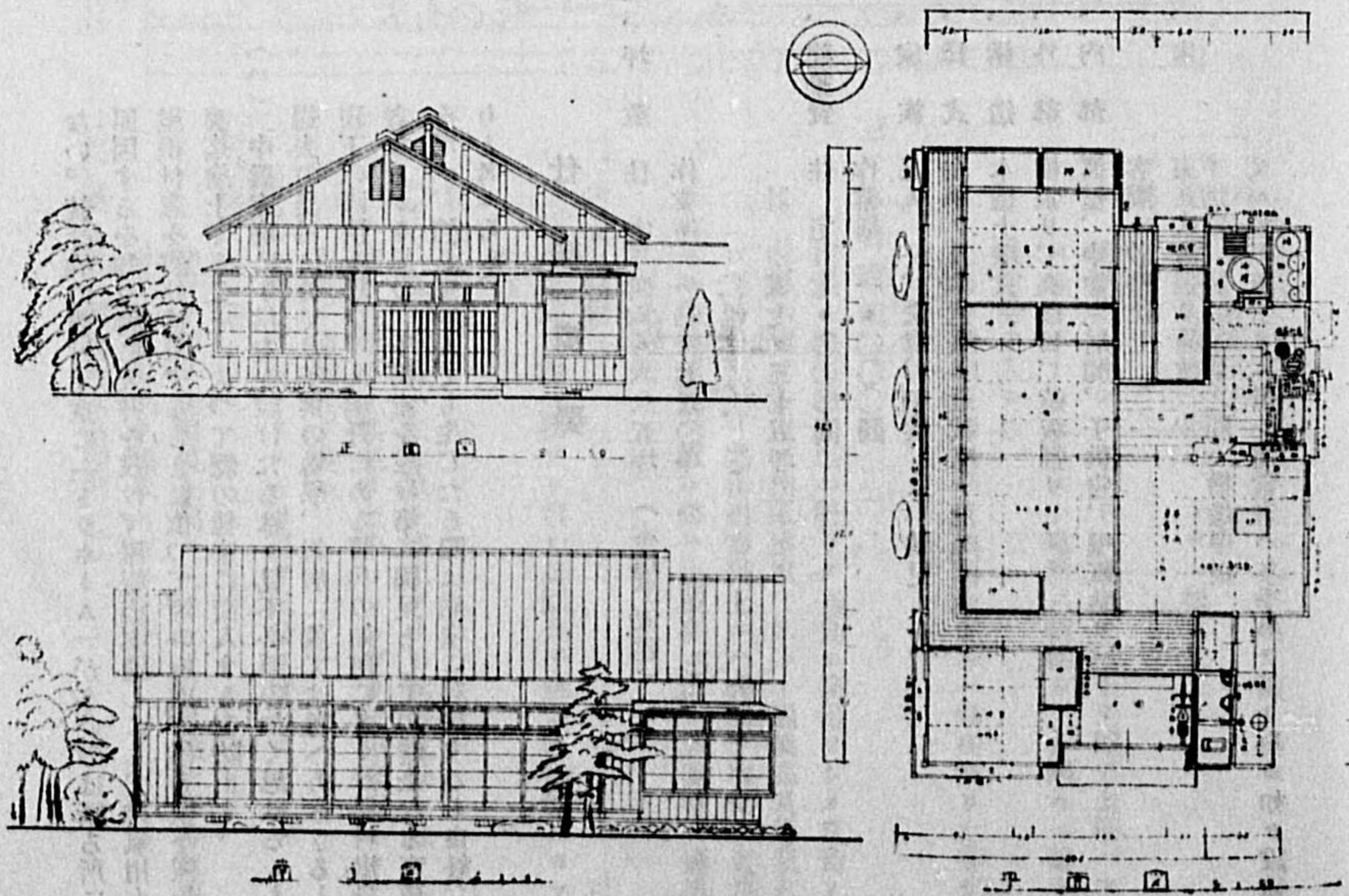
軒高造

内外部

住居部ニ同ジ  
平均地盤ヨリ軒桁時迄十一尺屋根勾配五寸、家畜マネキ屋根  
下見板張り  
床コンクリート叩キ壁、眞壁、腰モルタル塗り、天井竿椽天井及び板張りトス作業場上ハアマヲ設ケ物置トナス

豫算概要

住居部 五阡參百貳拾五圓也  
作業部 阡五百拾貳圓五拾錢也  
家畜舎 七百貳拾圓也  
其他 八百圓也 (排水、垣、養魚池、灰小屋、塵溜)  
計 八阡參百五拾七圓五拾錢也





設 計 趣 旨

(一) 平面計畫に方々研究したる結果農家建築として傳統的な四間式建築とも言ふべきものに對して其處に何とも言へない、然も傳統的の良さと云ふべきものを在來の農家に見へ出だし出來得るだけの幾百年に亘り農村人の親んで來たものを破壊せざる様即ち戸障子を取らば大部屋として冠婚葬祭の際には最も良好であり、又最近なれば隣保常會程度の集合なれば客間次間のみで實施し得ると言ふ様に傳統の根強さ又其の良さを旨として衛生的方面に充分考慮を計り設計す。

(二) 家相に就ては單に迷信とは言ふものゝ農村人に其の腦裡に深くあるを考へて日常生活に精神的の影響多大なるものを思ひ家相説を充分に考慮し精神的安定の下に健全なる家庭と繁榮を計るべく設計す

(三) 従來の農村住宅を衛生的改良したる點

(イ) 『家の通り様は夏を主とすべし、冬は如何なる所にも住まる暑き頃悪しき住宅は堪へ難き事なり、深き水は涼しげなし、淺くて流れたるは遙に涼し』と徒然草に兼好法師の言葉にある如く夏を主として設計す、然して日本住宅特に本縣に於ては夏涼しければ冬暖き家なりと定義し得るものと信ず。

(ロ) 居間兼茶の間

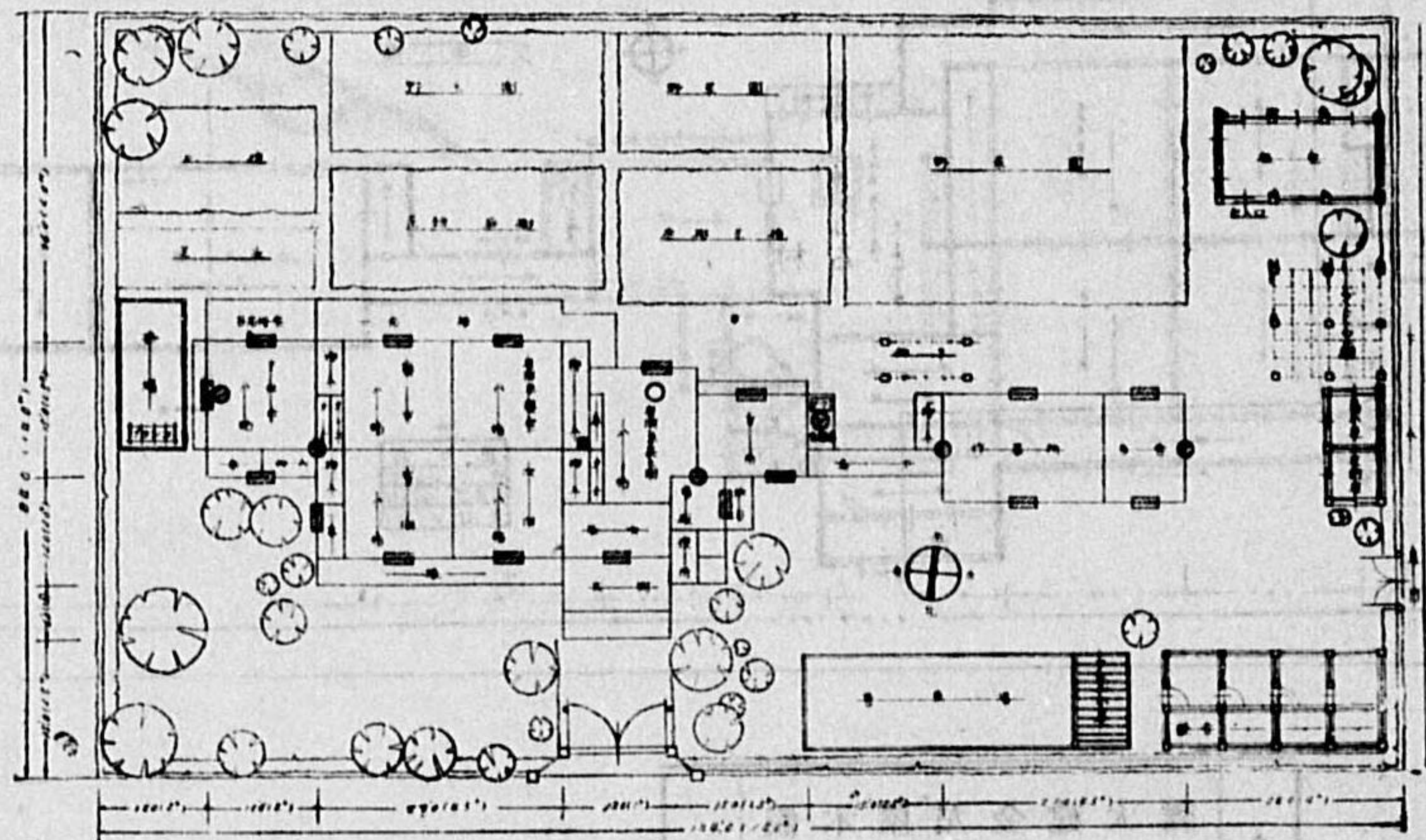
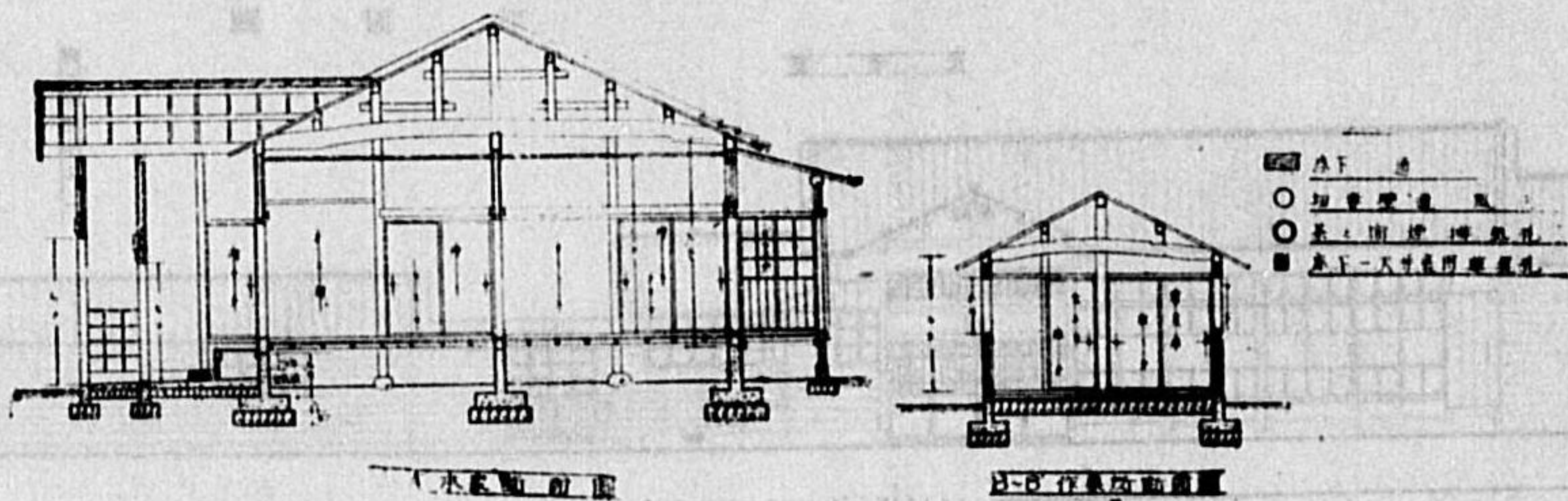
北邊の農家にありては冬季「チロ〜」と然ゆる圍爐裡火に對して傳統のなつかしさ、又皇軍の勳々たる戦果を語るも又樂しと思ふ時、又必然的にあの物すこいばかりの煙を考へざるを得

ない。統計的に農村兒童に「トラホーム」が多いのは斯る所に原因するを知り特に天井を設けず屋根迄素通しにして排氣用小屋根付窓を設け排氣することに依つて煙の室内、然も壁を屋根裏迄塗上ぐるることによつて煙の他室に浸入するを防止す。

(ハ) 中農家庭に子供室を設けたるは一見不必要の如く思はるゝも過去の農村に於ては子供の勉學、起居に就ては考へあらざるも現下の國情を思ひ、又聖野にある將兵の如何に多くが農村出身者なるかを思ひ、子供室を設け第二國民としての健全なる育成を考へ、然して病人でも生じたる際は病室に利用するも良好なりと考へらる。

仕 様 概 要

- 一、坪數 住宅 四六・六二五坪 (木造平家建)
- 作業所 一〇・七五〇坪 (同)
- (右廊下ヲ含ム)
- 計 五七・三七五坪
- 一、建築費 住宅 七・〇〇〇圓
- 作業所 一・〇〇〇圓
- 一、家族 老人 一、夫婦、子供 二、幼兒 一、
- 一、様式 在來ノ日本建築ニ近代味ヲ加味セルモノ
- 一、構造 木造土壁式
- 一、外部 横張り、高破目、焼板張り
- 一、内部 眞壁、中塗(居間、子供室、壁紙貼り)
- 客間 砂壁仕上
- 一、床 東立式板張り疊敷
- 子供室、居間兼茶の間ハ檜板甲板
- 又ハ杉上板張り(但シ通常者ハ冬季疊ヲ張り得ル如ク設備



- 一、天井 竿椽天井
- 一、屋根 瓦葺、小屋根 トタン板葺仕上
- 一、耐震構造
  - 地形ヲ「コンクリート」トナシ足下ヲ即チ土臺ハア
  - ンカーポルト」ニテ地形ニ結結シ、各隅々ニ土
  - 臺燧梁ヲ入レル
  - 要所ハ鐵物ヲ緊結筋違使用小屋ニハ燧梁振り止等充
  - 分ニ使用ス
- 一、防暑設備
  - 採光ニ差支無キ迄ニ軒下ヲ充分ニ突出セシメ日光ノ
  - 直射ヲ防グ各室ノ換氣通風ヲ床下ノ通風窓及導氣孔
  - ニヨツテ速ニス間仕切鴨居上ニハ欄間ヲ取付ケ天井
  - ニモ各換氣孔ヲ設ケ總テ小屋裏ニ出シ切妻壁ノ通風
  - 孔ヨリ換氣ス
- 一、防寒設備
  - 茶之間ハ爐ニ依ツテ行ヒ居間及子供室ハ炬燵ニヨツ
  - テ行フ
- 一、防漏設備
  - (イ) 床下地盤ハ三寸以上盛土ヲナシ常ニ乾燥ニ近クス
  - ルタメ床下ノ換氣ヲ充分ニセンガタメ出來得ルタケ
  - 大ナル通風孔ヲ作ル
  - (ロ) 壁ハ眞壁トスルモ濕氣ヲ充分ニ防止スルコト
- 一、給水設備
  - 井戸ヲ掘リ洗濯場上部ニ「タンク」ヲ設ケ浴室炊事
  - 場手洗用トシテ配水スルモノトス
- 一、便所 内務省改良便所

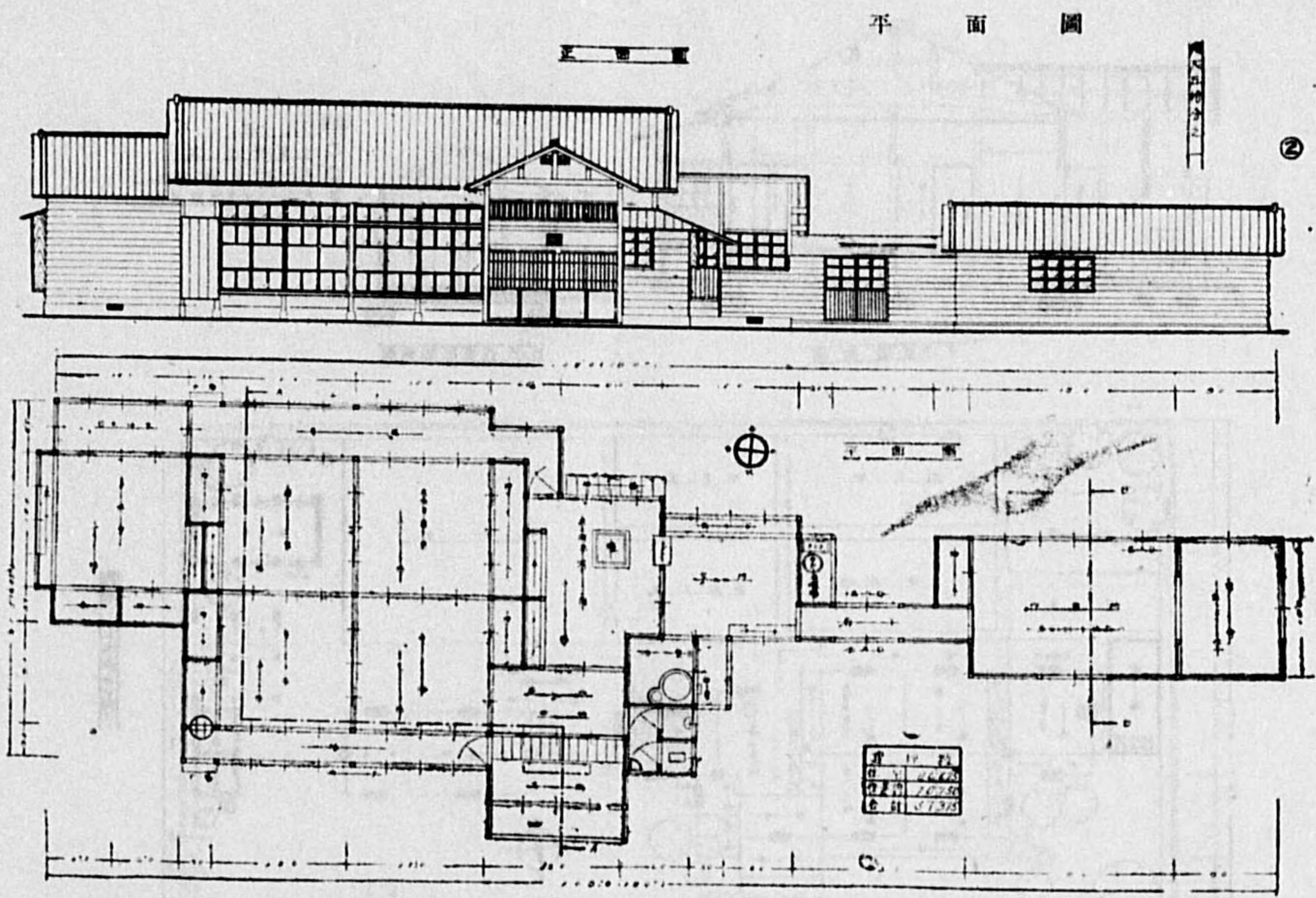
962  
144

富山縣厚生協會  
富山縣厚生協會  
富山縣厚生協會  
富山縣厚生協會

昭和十八年八月五日印刷  
昭和十八年八月十日發行

發行人 富山縣厚生協會  
(右代表 岸野宗吉)

印刷人 杉森元太郎  
(中富六二)



名 稱	住 宅	作 業 所
假設及基礎工事費	一、五〇〇	一、五〇〇
木 材	一、九〇〇	二、五〇〇
屋 根	八〇〇	一、〇〇〇
左 官	二、五〇〇	一、〇〇〇
金 工	八〇〇	一、〇〇〇
建 物	二、五〇〇	一、〇〇〇
大 工	一、〇〇〇	一、〇〇〇
雜 工	一、二〇〇	一、四〇〇
合 計	七、〇〇〇	一、〇〇〇

一、各部屋ニ就テ採光面積ト床面積ノ比

1、居 間 〇、六六六

2、客 室 〇、六六六

3、茶 室 〇、六六六

4、次 間 〇、六六六

5、子 供 室 一、〇四二

6、茶 之 間 〇、六二五

7、臺 所 〇、六六六

8、作 業 所 〇、三三三

**工事費概算書**

$$\frac{\text{採光面積}}{\text{床面積}} = X\%$$

又ハ割

962  
144

**製本控**

何第 號

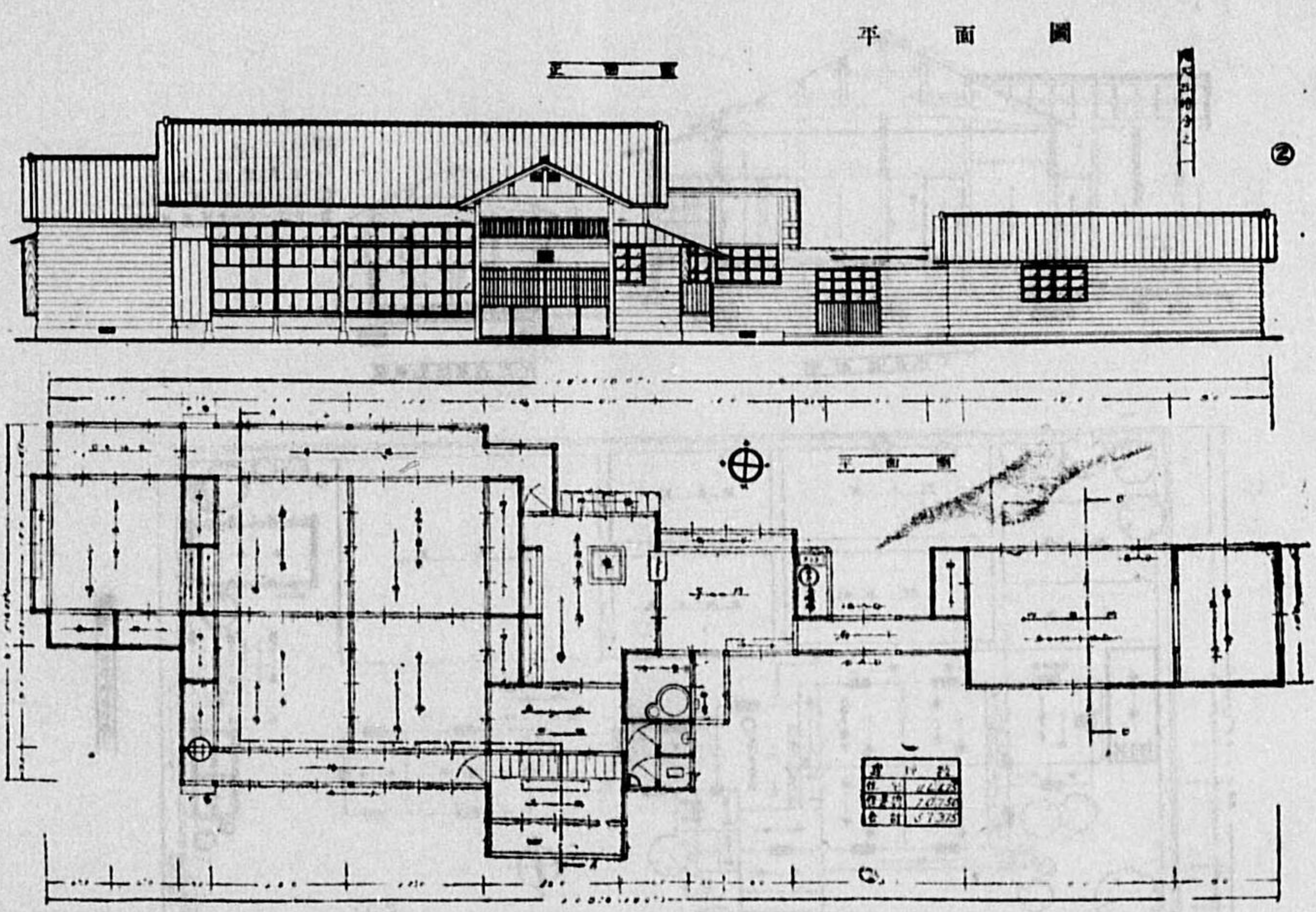
書名 144 號 年 月 日

著者 農林住宅設計協會

受入 年 月 日

備考

協 會 縣  
( 吉 )  
大 郎



名 稱	住 宅	作 業 所
假設及基礎工事費	一、五〇〇	一、二五〇
木根工事費	一、九〇〇	一、〇〇〇
屋根工事費	一、八〇〇	一、〇〇〇
左官工事費	一、二五〇	一、〇〇〇
金物工事費	一、八五〇	一、〇〇〇
建具工事費	一、〇〇〇	一、一五〇
大工工事費	一、二〇〇	一、一〇〇
雜工	七、〇〇〇	一、〇〇〇
合 計		

**工事費概算書**

一、各部屋ニ就テ採光面積ト床面積ノ比

1、居 間 〇、六六六

2、客 間 〃

3、次 間 〃

4、茶 室 一、〇四二

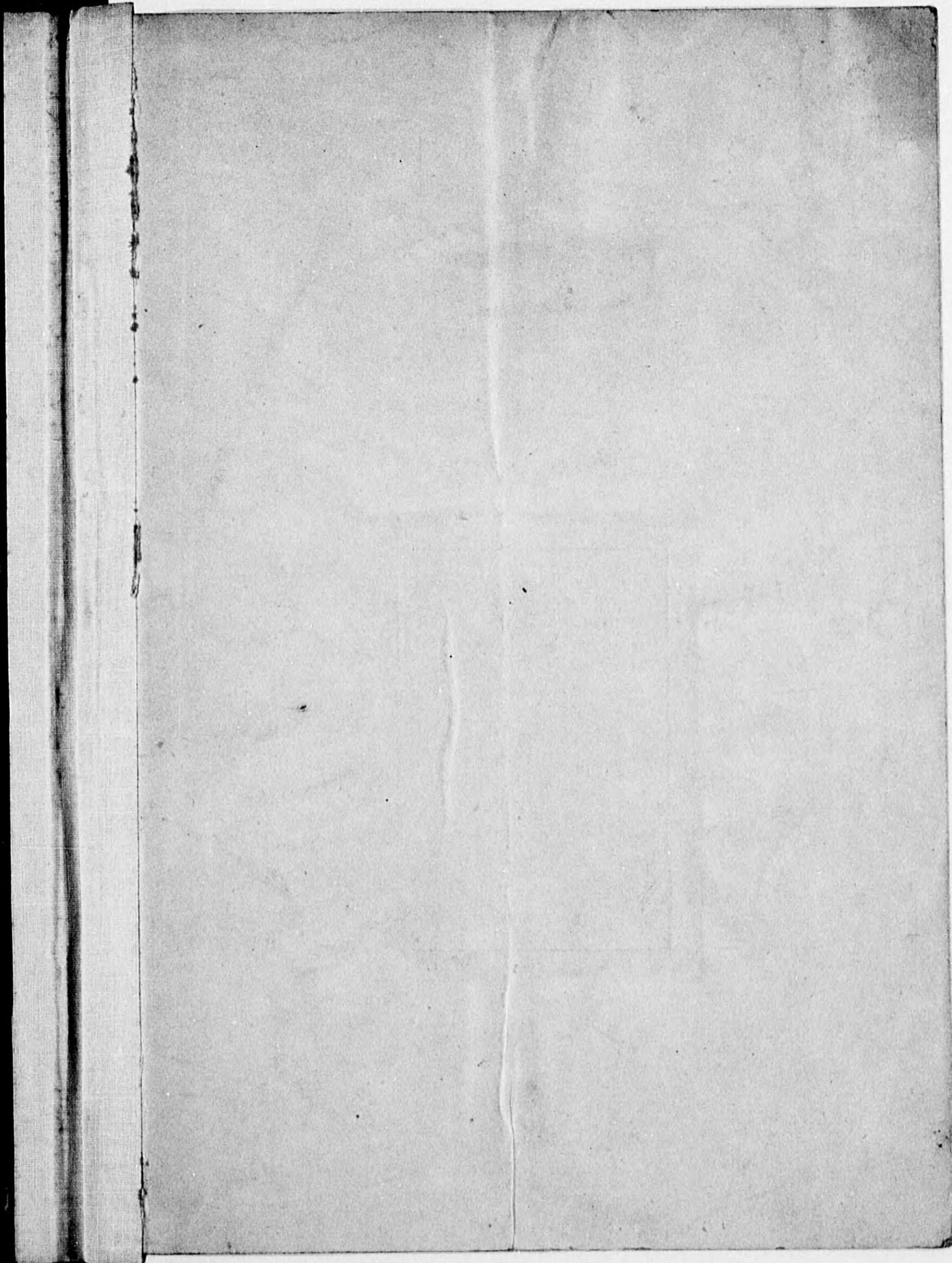
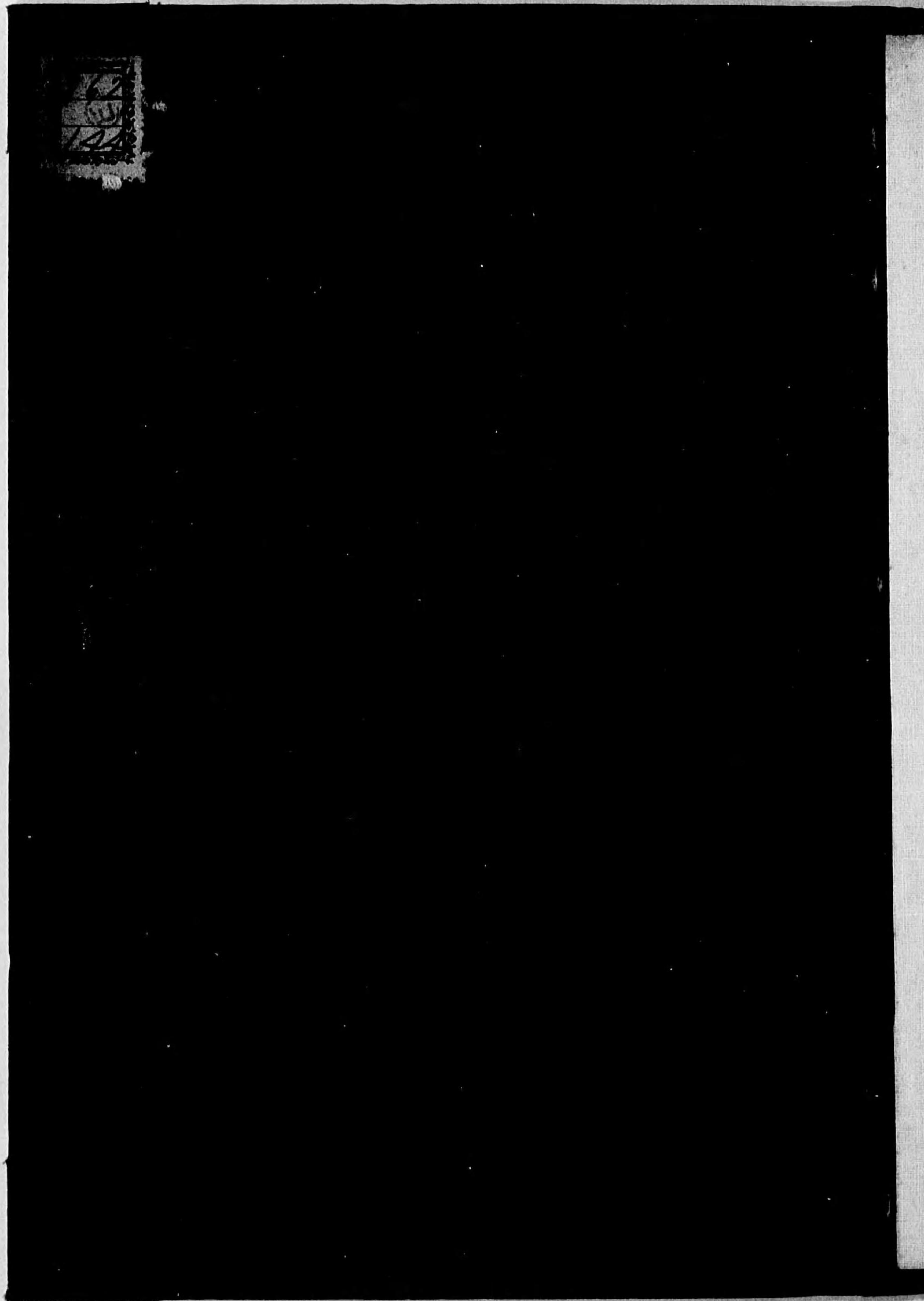
5、木子供之間 〇、六二五

6、茶之間 〇、六六六

7、ト、臺 所 〇、三三三

8、手、作 業 所 〇、三三三

採光面積 = X%  
床面積 又ハ割



終